

～稚鮎約 5,000 尾を放流～  
稚鮎放流事業 5/12 (木)



金生町下分川原田橋近くの金生川などで銅山川鮎釣りクラブと国際ソロプチミストイースト愛媛主催による稚鮎の放流事業が開催されました。この事業に参加した市内の保育園児、幼稚園児たちは「元気で大きくなってね」と声をかけながら、バケツに入った稚鮎を放流していました。

～元気な園児たちの笑顔～  
「金生幼稚園」・「三島幼稚園」による花まつり贈呈式 5/6 (金)・9 (月)



5月6日には認定こども園「金生幼稚園」の園児たちと土肥ゆかり副園長が、5月9日には認定こども園「三島幼稚園」の園児たちと好井光江園主がそれぞれ市役所を訪れ、花まつり贈呈式が行われました。これは、それぞれの幼稚園で毎年、お釈迦様の誕生を祝って花まつりが行われていて、花束と甘茶を贈呈するため市長を表敬訪問したものです。

贈呈式では、代表の園児から市長などに花束や甘茶の贈呈が行われました。園児にはお返しとして、本市マスコットキャラクター「しこちゅ～」からお土産が渡されました。

～家族で自然とふれあう～  
土居釣り大会 5/5 (木)



土居町の浦山川で四国中央市土居釣り大会が開催されました。この大会は、土居町内水面漁業協同組合（深川伸一組合長）が開催しているもので、今年で39回目になります。会場には約6,000尾のマスやアマゴが放流され、市内外から訪れた約3,000人の参加者は、大物を狙って釣りやつかみ取りを楽しみました。

～就職応援～  
四国中央市企業合同就職説明会 4/24 (日)



ひめぎんホールで四国中央市企業合同就職説明会が開催されました。これは、企業と学生のマッチング機会を創出し、将来を担う優秀な人材の確保とともに、地元企業の魅力や産業集積の強みを情報発信することが目的で、当日は地元の企業など50社が工夫を凝らしたブース展示を行い、参加した77人の学生からも、熱心な質問が繰り返されました。

～水産資源を守るために～  
鮎の放流事業 4/27 (水)



銅山川漁業協同組合（坂上正則組合長）による鮎の放流事業が行われました。この事業は、水産資源の繁殖・保護・増産と遊魚などによる観光振興につながることを期待して実施されています。当日は、漁協組合員や関係者など約25人が、富郷町杉成などの銅山川に10cmほどの鮎の稚魚約13,000尾を放流しました。

～健やかな成長を願って～  
第38回みしま子どもの祭典 5/3 (火)



みしま児童センターで、みしま子どもの祭典が開催されました。これは、5月5日から11日までの児童福祉週間に合わせて、地域に育つ子どもの健やかな成長を願って開催されています。訪れた多くの家族連れは、ボウリングやしこちゅ～カルタなどをして楽しんだり、そうめん流しやフランクフルトなどを食べたりして、楽しい時間を過ごしていました。

～こどもの日、楽しもう！～  
こどもフェスティバル 5/5 (木)



川之江児童館でこどもフェスティバルが開催されました。館内でのおはなしボランティアによる紙芝居などのほか、芝生広場には輪投げやししゃぼん玉遊び、工作遊びなどのコーナーが設けられ、晴天の下、会場を訪れた多くの家族連れなどは、さまざまな遊びを体験して楽しんでいました。

～田んぼアートにも挑戦～  
学校給食米田植え体験会 4/23 (土)



土居町津根の長津干拓で、四国中央市学校給食米田植え体験会が行われました。今年で12回目になる体験会には、市内の小学生と保護者など約300人のほか、JA職員など7人の早乙女も参加し、最初に苗の植え方を教わった後、裸足になって田んぼに入り、泥だらけになりながら約25アールの田んぼに苗を植えていきました。

～トイレ掃除で幸せに～  
四国中央掃除に学ぶ会 4/24 (日)



三島公園子ども広場で四国中央掃除に学ぶ会（毛利久美子代表）による掃除実習が行われました。この活動は、「トイレ掃除で幸せになりましょう～あったかしこちゅ～を目指して～」をテーマに、市内の公共施設などでトイレ掃除を行っているものです。今回は、15人の参加者が2班に分かれ、約1時間かけてトイレ掃除に取り組みました。

～いざという時に助け合うために～  
本村上自主防災会春の防災訓練 4/24 (日)



金田町の本村広場で、本村上自主防災会春の防災訓練が行われました。訓練では、消火栓接続訓練や災害用装備品の取り扱い訓練、消防署救急隊員らによる心肺蘇生法や身の回りの物を使った応急手当の講習などがあり、約60人の参加者は、災害時にお互いに助け合えるよう、真剣な表情で訓練に取り組んでいました。

～高原に広がる菜の花畑～  
翠波高原菜の花まつり 2016 4/24 (日)



翠波高原で菜の花まつりが開催されました。会場では、Warble音楽ライブや重岡まみさんによる菜の花写真教室、お楽しみ抽選会などさまざまな催しが行われました。花園には見頃を迎えた菜の花が咲き揃い、市内外から訪れた多くの家族連れなどは、園内を散策して写真を撮ったり、展望台からの景色を眺めたりして、楽しい時間を過ごしていました。

市長のひとりごと



四国中央市長 篠原 実



最近、上京の際の飛行場は、ほとんど高松空港を利用している。本市から空港へのアクセス道路が、ラッシュにかかって未定になることがないからだ。そんな折、所用で上京する際に、珍しい情景に出会った。お母さんの手をしっかりと握った3歳くらいの男の子が、見送りに来ていた男性に向かって、ガラス越しに、「パパアア…パパアア」と叫んで泣きじゃくっていた。ママの場合は、時々見かける風景だけれど、パパの場合は、最近の家族でも珍しいし、まして空港では初めて見かけた。やがて、パパの方が諦めて、見えなくなってしまうので、少し感情も収まったように静かになった。思わずお母さんに、「パパも息子にあれくらい別れを惜しんでくれたら本望だろうね！」と呼びかけた後、「どうに行かれるんですか？」と問いかけると、「埼玉の実家の方に、お産で帰るんです」と返答があった。恐らく、次男が誕生するのだろう（勝手な想像ですが）。時間があれば、じつとさまざまな人の表情を見ているだけで面白い。5月に入って、先月の市報で紹介したママと息子たちに、奇跡のようなタイミングでみしま児童センターの「子どもの祭典」で、再びばったり出会った。さすがに義母が一緒ではあったが、人の縁とは、宗教的理屈は別にしても面白いものである。20秒程、何かで時間がずれていたら会えなかっただろう。